

「世界エイズデー」って知っていますか？

大阪市立長吉六反中学校
2017年12月1日

「世界エイズデー」は、WHO（世界保健機構）が、1988年に世界レベルでのエイズまん延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消を図ることを目的として、12月1日を”World AIDS Day”と定め、エイズに関する啓発活動等の実施を提唱したのが始まりで、日本でも厚生労働省が中心となり、さまざまな啓発活動が毎年行われています。

世界エイズデーの今年のテーマは

「UPDATE! エイズのイメージも変えよう」です。

HIV／エイズに関する取組は、今、大きな転換期となっています。

治療法の進歩によりHIV陽性者の予後が改善された結果、HIV陽性者は感染の早期把握、治療の早期開始・継続によりエイズの発症を防ぐことができ、HIVに感染していない人と同等の生活を送ることが期待できるようになりました。

また、治療を継続して体内のウイルス量が減少すれば、HIVに感染している人から他の人への感染リスクが大きく低下することも確認されています。

つまり、治療の進歩でHIV陽性者の生活は大きく変わり、HIV感染の予防にもその進歩に支えられた様々な選択肢が用意されるようになりました。



今年の世界エイズデー啓発ポスター-中学生の部最優秀賞作品

しかし、現状はそうした変化が正確な情報として十分に伝わっているとは言えず、HIV／エイズについては、原因不明で有効な治療法が無く死に至る病であった時代の認識にとどまっている場合が少なくありません。そのことがHIV感染を心配する人たちを検査や治療から遠ざけ、また、差別や偏見を招く要因の一つになっているとも言われています。

情報をUPDATE（更新）して、イメージを現実近づけていくこと、それはHIV／エイズに関する取組をより実行性あるものとするために、不可欠なことです。そのため、『UPDATE!』をメインメッセージとして設定し、サブメッセージとして、まずはエイズのイメージを変えることを呼びかけ、その後「行動を変える」「職場を変える」等、新たな『UPDATE!』へつなげるためのスタートラインとします。

ちなみにあなたは HIV・エイズについて、どれだけの知識を持っていますか？

Q いまHIVやエイズはどんな状況なのでしょう…？

A 2016年末現在、世界中で3670万人の人々がHIVとともに暮らしています。HIVの流行が始まってから、およそ3500万もの人がエイズによって亡くなったとされています。

2016年1年間にHIVに感染した人は180万人で、15歳未満の子どもが

16万人含まれています。エイズで亡くなった人は100万人でした。世界では1日に約1650人の若者（15～24歳）がHIVに感染しています。

日本では2016年度の新規HIV感染者・エイズ患者報告数は1448件で、横ばい傾向が続いています。新規報告者数のうちおよそ3割が、エイズを発症して見つかっています。自身がHIVに感染していることを知らない者が数多く存在するとも推定されています。

HIV感染症／エイズを予防するためには、感染経路を正しく理解して、常に感染を防ぐ方法を実行することが重要です。

HIVの感染力は弱く、性行為以外の社会生活のなかでうつることはまずありません。HIVは主に3つの経路で感染します。

- 1.性行為による感染
- 2.血液を介しての感染
- 3.母親から赤ちゃんへの母子感染

つまり、HIV陽性者とともに社会生活を営む中で、HIVに感染する可能性はきわめて少ないといえるでしょう。しかし残念ながらエイズ、HIVについての知識不足から差別・偏見がおこっているのが現状で有り、その解消のためには正しい知識を持つ人が増えることがいちばんの近道なのではないのでしょうか。

まずは私たちひとりひとりが行動を起こしていきませんか？

レッドリボン（右のイラスト。赤色のリボンです。）

1990年頃、エイズによって命を落とした人たちを追悼し、エイズに苦しむ人たちへの理解と支援の意思を示すため、“赤いリボン”をシンボルにした運動が始まりました。つまり、このレッドリボンには、私はエイズに関して偏見を持っていない、エイズとともに生きる人々を差別しないというメッセージです。

このレッドリボンの意味を知り、レッドリボンを身につけることによって、エイズのことをみんなで学び、考えていきましょう。



保健室前に「レッドリボン」を置いています。この意義に賛同し、ともに学び、考えていこうという人は自由に身につけてください。

また、HIV・エイズについてさらに詳しく学びたいという人は、FM802（FMラジオ局）のサイトや、A P I - N e t（エイズ予防情報ネット）などを見てください。また、田中先生・糸井先生・加藤先生に聞いてみてください。学ぶための情報を教えます。